

Ⅳ－11 中国の都市における出稼ぎ労働者の生活実態及び滞在指向に関する分析

エイトコンサルタント 正会員 ○木村 篤司

穴吹カレッジ 正会員 呂 兆新

徳島大学 正会員 山中 英生

1. はじめに

1980年以降、それまで戸籍制度の下で身動きの出来なかった中国の人口が、経済発展と政策緩和により社会的・地理的に急激な流動化を開始した。このような大規模な人口の流動化は、人の移動が厳しく制限されてきた中国社会に対して様々な影響を及ぼしている。中国における都市化、戸籍制度など制度的規制によって築き上げられた都市・農村の二重社会構造はその一例とされている。

近年中国では、地域間人口・労働力移動に関する研究・調査が盛んにおこなわれてきた。しかしながら、その多くは上海、北京、広州のような沿岸部の大都市に焦点をあて、内陸部にある大都市における出稼ぎ労働者について不明な点が多いことより、本研究では、1999年9月に内陸部にある成都市において行った現地調査をもとに、成都市における出稼ぎ労働者の生活実態・滞在指向に着目して分析を試みる。その成果を踏まえ中国における人口政策について考察する。

2. 成都市について

成都市は、中国西南部に位置する四川省の省府として、四川省および中国西南部の科学技術・商業貿易・金融・交通・通信の中心地である、成都市都市圏の総人口は982万人で、1997年に直轄市に昇格した重慶市に次ぐ西南部の第2の大都市である。成都市市区の

総人口で見ると221万人に対して1995年では、同年の流動人口は44万8729人となっており、成都市市区の総人口の20%を占めるまでにいたっている。

3. アンケート調査の概要

出稼ぎ者に対する調査は、四川省成都市九眼橋地区の外来人口職業紹介所にて、アンケート票を用いて聞き取り調査を行った。252人分のデータを収集し、そのうち都市戸籍を除いた225人を分析対象としている。調査内容は、出稼ぎ労働者の基本属性、生活実態と滞在指向に関する質問である。

4. 中国の戸籍制度について

中国の人口移動を考察する場合、中国特有の戸籍制度について理解が必要である。現行の戸籍制度は、1958年1月公布の「登録条例」によって定められたもので、都市と農村の2つに分けられる。都市戸籍は、国の供給による「商品糧」を購入する事ができ、その優遇的供与を受けることが出来るが、農村戸籍はそれを受けることが出来ないという「口糧制度」によってなっている。中国の戸籍制度とは、つまり食料・就業・移住の3つにより個人の社会生活を保障する基本であり、国家にとっては人口配置と衣食住を統制する手段となった。この厳しい規制が中国における都市の人口膨脹の防止に寄与してきた一方で、中国の都市・農村の二重社会構造もこの戸籍制度によって形成されたとされている。

5. アンケート調査の結果

(1) アンケート被験者の属性

調査サンプルの属性分布では、男性が7割を占めていて、結婚については未婚者が多い。教育レベルでは、中卒・高卒の学歴者が多くを占めている。年齢では20代が7割に達し、出稼ぎ者の家族形態については、単身や友達・知り合い同志が殆どで、夫婦や家族での出稼ぎは少数であった。出身地は、四川省外の人、全体の4.4%しかなく大半は、四川省出身である。省外の出稼ぎ労働者にとって、西部は魅力的な都市では無いことが示唆される。



図－1 中国における四川省の地理的位置

（２）出稼ぎ者の収入の変化

図-2 は、最終学歴別に、出稼ぎ前後の平均月収を表したものである。高学歴になるほど月収の増加が多くなっている。特に短大卒以上は、他の学歴レベルと大きな格差がある。また、都市住民の平均月収 720 元より、学歴レベルが短大卒以上を除けば大きく下回っていることがわかる。また、月収から送金と生活費を差し引いた額で見ると、最終学歴レベルが短大卒以上を除けば、0 に等しく、苦しいギリギリの生活をしていることがわかる。

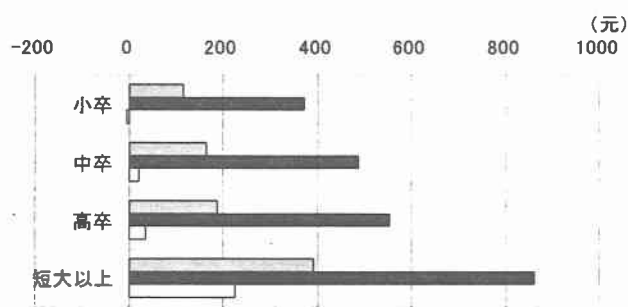


図-2 出稼ぎ者の収入の変化

（３）出稼ぎ後の収入の格差

図-3 は、最終学歴レベルの中で被験者がもっとも多い中卒者に着目して、出稼ぎ後の収入について、年齢別に表した。これによると同学歴レベルでも、年齢が高いほど、特に 40 歳以上の人、収入が低くなっていることがわかる。

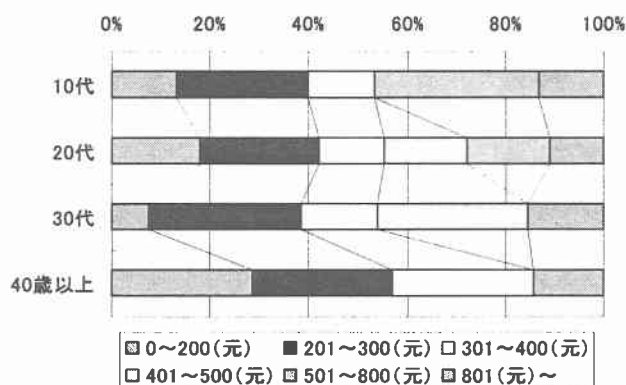


図-3 出稼ぎ後の収入の格差

（４）住居の種類について

図-4 は住居の種類を、最終学歴レベル別に示している。全体的に就労先の宿舍・作業場と民間の賃貸住宅が多いことがわかる。親戚の住居・自宅は少数であることがわかる。また、最終学歴レベルの小卒では路上生活者の割合が、20%を越えていることは特徴すべき

点といえる。

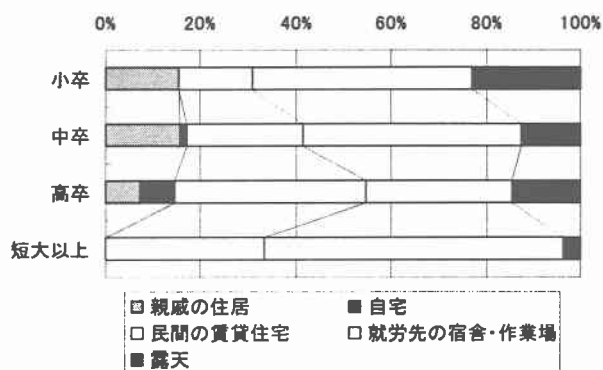


図-4 住居の種類について

（５）今後の出稼ぎの計画

図-5 は、今後の出稼ぎ計画を、最終学歴レベル別に示している。学歴レベルが高くなるほど「可能なら続けたい」、「都市戸籍がないまま住み着く」、「都市戸籍を取り、都市住民になる」など滞在指向が高い人の割合が多くなっていることがわかる。特に短大卒以上の層は、顕著な結果がでている。この結果から、学歴が高くなるほど長期滞在指向が強いことがわかる。また全体的にも長期滞在指向が強いことがわかる。

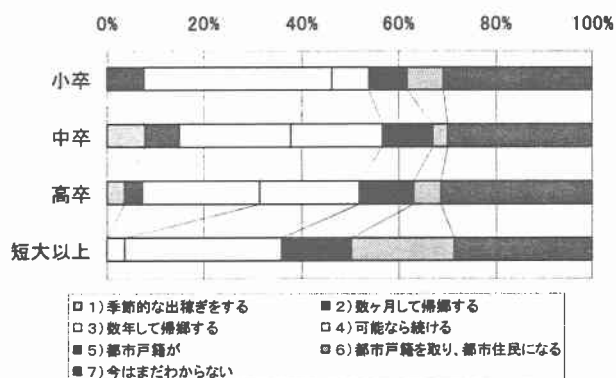


図-5 今後の出稼ぎの計画

6. おわりに

出稼ぎ労働者の都市での生活実態は、都市住民より生活水準が低く、出稼ぎ労働者の中でも格差が生まれ、高年齢（特に 40 歳以上）で低学歴（小卒）になるほど生活水準が低いことがわかった。

滞在指向では、長期滞在指向が強いことがわかった。その中でも、高学歴になるほどそれは強くなることがわかった。その結果、戸籍制度は形骸化していることがわかる。

今後、戸籍制度の緩和はさけがたい状況の中で、都市側での受け入れ施策とともに、受け入れ可能な都市への誘導などの政策を検討する必要があるといえる。